

(3) 北京（外国公館所在区域）・天津

関東、北京、天津済

上海電第一八七号 (12月21日外務省写接受)  
 英軍司令官「ダンカン」少将ハ帰国スルコトニ決定シ後任  
 ハ一九三年以来印度ニ在リシ「アレキサンダー、ビー、  
 ウォドロップ」少将ニシテ一月二十五日頃着任スト

372 昭和2年12月19日 在上海重藤中佐より  
 南(次郎) 参謀次長宛 (電報)  
 ダンカン英司令官帰国について  
 12月19日後発  
 12月19日後着

國 伊		
海軍	陸戰隊	陸軍
潛砲母一	(未交代帰還後) 一五〇	砲四六〇
河巡砲一	二〇〇 るもに艦隊には上陸し得 るに艦隊には上陸し得	

373 昭和2年4月1日 在中国芳沢公使より  
 常原外務大臣宛 (電報)  
 華北治安維持に関し山海關の守備兵配置は必  
 要なしとの英、米公使の意見について  
 第三二六号  
 第一五号

四月一日外交團會議ヲ開キ北支方面ノ治安問題ヲ協議シタ  
 ル際鐵道守備兵ノ内山海關方面 outposts ハ必要無シトノ  
 議論起リ英米公使ハ米國司令官ハ右ノ説ヲ唱ヘ居リ寧ロ中  
 央部ニ之ヲ留メ置ク方兵力ヲ集中スル事トナリ得策ナリト

國 仏		國 米	
海軍	民陸警隊及	軍 陸	軍 海
		北 京 天 津 步 大 約 四 〇 〇	其潛潛駆 他母八 若干
	計約 一、 四 〇 〇 ( )	砲步 一 中 大	
河砲裝巡 三	約 一、 〇 〇	山狙步 二 中 大	河砲巡裝 砲二 三 巡 一
		小 約 曲 戰 一步 砲一 五 〇 小	其駆 他若干
河砲二		廣東步 一 中 約 二 〇 〇	其他若干 及廣東)
河巡砲一	三 五 〇	砲狙 二 中 大 と 一 中 合 計 三 一 小 ( 六 〇 〇	其潛駆裝 他若干 巡 一 六 巡 一 九 九 〇 〇
潛砲母一		二、 艦 尚 增 遣 中 の 巡 二	潛砲河巡 母砲三 二 一 一
		三、 の 予 別 印 度 支 那 に 定 歩 大 六 月 中 旬 行	比島 には 艦船若干 あ
		一、 し 天 津 歩 不 著 大 六 月 中 旬 發	一、 別 に 百 あり 外せらる るも上記 の數字は不明 なと報 計

ノ説ナル旨ヲ披露シタリ右ニ付協議ノ結果各司令官ノ協議ニ任ス事トナリタリ就テハ右高田司令官ニ御伝アリタシ外務大臣へ転電セリ

374

昭和2年4月1日

在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

## 天津地方に日本軍三箇中隊増派の必要について

て

北京 4月1日後発  
本省 4月2日前着北京 4月1日後発  
本省 4月2日前着

## 第三三四号(極秘)

四月一日英國公使ハ本使ニ対シ北京天津ニ於ケル事態ニ付テハ自分ニ於テモ予テ多大ナル危惧ノ念ヲ有シ英國臣民保護ニ付テハ現在ノ兵力ニテハ到底不充分ナリト認メ増兵方本国政府ニ二回程電稟シ置キタルカ今回其返電ニ依レハ天津ノ増兵ニ付テハ英國政府トシテハ実ハ上海ニ大兵ヲ送リタルニ付天津ハ可成ク日本ニ於テ引受ケラモ希望スルモ若シ日本政府ニシテ英國ノ派兵ヲモ希望スルニ於テハ約千人(一〇〇〇)ヲ増兵シテ差支ヘナキニ付右ニ付日本公使ト協議スヘシトノコトナリト述ヘタルニ付本使ハ一応考量ス

375 昭和2年4月(2)日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)  
北京の治安維持に関する外交団会議決定について

北京 4月2日前着 発  
本省 4月2日前着

第三二五号

四月一日外交団会議開催首席公使ヨリ支那時局ノ極メテ重大ニシテ北支方面モ何時禍乱ノ巷トナルヤモ計リ難キ次第ヲ述ヘ殊ニ其ノ内露国力策動シツツアル間ハ吾々外国人力絶ヘス脅威ヲ受ケツツアリト述ヘタル点ハ一同ノ注意ヲ牽

キタリ之ニ対シ英仏米等ノ公使ヨリ種々ノ情報ヲ説明スル處有リタル上(米公使ノ談ニ依レハ支那ニ於ケル殆ト全部ノ米人ニ引揚ヲ勧メ居ルモノノ如シ)種々協議ノ結果主トシテ北京ノ治安ニ関シ措置ヲ執ル事トナリ

(一)首席公使ヨリ外交總長ニ勧メ外交總長ヲシテ警察官俸給

支払ノ為関税余款ヨリ経費支出方ヲ外交団ニ請求セシムル事

(二)公使館区域行政委員長ニ勧メ公使館区域警察官ト公使

ヘシト答ヘタル上本庄中將ノ意見モ微シ考量ノ結果義和團事変ノ如ク大規模ノ「ア・パライジング」ノ場合ニハ列國側トシテモ多少準備ノ時日ヲ有シ得ヘク旁右ノ如キ場合ニ対応スル為ニハ満州駐屯軍ニ援助ヲ求メ差支ヘナカルヘク又其事実アルヘキヲ信ス

併乍ラ突發スル暴動ノ如キハ防衛ニ付準備ノ時日ナカルヘキニ付予メ増兵ヲナスノ必要アリ從テ聞ク處ニ依レハ中隊ノ増兵ハ既ニ決定シ居リ且ツ之ヲ五月ニ至リ実行サル趣ニ付時期ヲ早メ速ニ増兵ヲ実行スルコトトシ配兵數ハ一個中隊ニテハ僅々百五十名ノ少數ニテ実力極テ乏シキニ付三個中隊位ヲ増加シ北京、山海關ニ各一中隊ツツ位ヲ増援スルコト致シタシ我國ハ地理的關係ニモ顧ミ今ヨリ英國案ノ如ク千人ノ増兵ヲナス必要ナシト思考ス尙北京、天津ノ形勢ハ主トシテ河南問題解決ノ結果如何ニ依ルモ河南ニ於ケル奉天軍ニシテ失敗セハ其失敗ノ程度ノ大小如何ニモ依ルコト勿論ナルモ形勢ノ頗ル危殆ニ赴クヘキハ明カナリ且ツ天津ニ於テハ既ニ多数ノ煽動者入込ミ居ルヤノ情報モアリ万ノ場合ニ応スル措置ヲ講シ置クコト必要ト存ス天津ヘ転電セリ

## 館護衛兵トノ一層ノ協力ヲ図ラシムル事

(三)内務總長ニ勧メテ支那警察ト公使館区域警察トノ協力ヲ図リ且ツ誤解無キ様力ムル事(本項ハ内務總長ヨリ内談アリタルニ基クモノナリ)トナリタリ

天津へ転電セリ

376 昭和2年4月7日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

北京各国軍司令官会議協議事項について

北京 4月7日後発  
本省 4月7日後発

第三七四号

往電第三六五号ニ関シ

四月四日午前十時各國隊長会議開催協議事項大要左ノ通り

(一)支那人ノ荷物預リヲ制限スルコト

(二)支那人ノ通込ヲ制限スルコト

之カ為必要ノ「バス」ヲ發行スルコト

(三)交民巷巡捕ヲ万ノ際ハ守備軍ノ指揮下ニ置クコト

猶露国大使館ハ陰謀ノ策源地ナル趣ニ付必要ニ依リ之ヲ占領スルコト

(国) 各国守備隊ハ自国人保護ノ手段ヲ執ルコト  
又守備隊ナキ外国人ノ保護モ適宜講スルコト

377 昭和2年4月8日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

日本軍を含め京津駐在外国軍隊倍増の必要に

ついて

北京 4月8日後発  
本省 4月8日後着

第三八三号(極秘)  
往電第三八二号ニ関シ

右ニテ御承知相成ルヘキ通當地ニ於テハ多分多數ノ殘留者有之ヘク又天津ニ於テハ引揚者更ニ少カルヘク從テ北京ニ於ケル公使館ノ護衛及北京、天津ニ於ケル居留民ノ保護ニ就テハ至急適當ノ措置ヲ講スルノ必要有之處本使ノ觀ル処ヲ以テスレハ徐州及蚌埠ノ兩地ニシテ陥落セサル以上ハ先ツ大体ニ於テ當方面ノ安全ヲ期シ得ヘキモ若シ右兩地ニシテ陥落スルニ於テハ予テ入込ミ居ル便衣隊其他ノ煽動者等ハ直ニ擡頭スヘク其他支那人ノ通弊トシテ裏切者モ有之ヘク北京、天津両地トモ或ハ鼎ノ沸ク力如キ狀況ヲ呈スルニノ上御閲覽ヲ請フ

上海へ転電セリ

378 昭和2年4月8日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

列國軍司令官會議において天津警備の強化を  
決議について

北京 4月8日後発  
本省 4月9日前着

第三八四号

四月六日我(天津日本軍司令官)官邸ニ列國軍司令官會議ヲ開キ時局ニ応スル天津ノ警備ニ關シ協議ス其際仏國司令官ヨリノ発案アリ英國、米國最モ之ニ賛成シ左ノ如ク決議シ之ヲ各司令官ヨリ各國公使ニ伝達スル事ニ申合セタリ

(一) 各國ハ現在兵ヲ即時二倍セン事ヲ望ム

至ルナキヤヲ怖ル(三七四文書)三四号ヲ以テ三個中隊ノ増兵ヲ稟請シタルモ其後更ニ熟考ヲ遂クルニ本使從來ノ経験ニ依レハ北京ニ於ケル政變若ハ騷動ニ際シテハ支那官憲ハ大体ニ於テ治安ヲ維持シ來リ又暴民モ特ニ外国人ヲ目懸ケタル

コト無之次第ナルカ今回ノ時局ニ就テハ從來ノ経験以外更ニ新規ナル考量ヲ要スルモノアリ即チ共産党ノ遣口ハ日英米仏等ヲ主トシテ外国人ヲ目懸ケ其暴行ノ方法辛辣巧妙ナルコト是ナリ

而シテ南軍ノ構成ヲ考フルニ總司令ヲ初メ最高幹部ハ只今ノ處穩健派ニ属スルモ下級將校及兵卒ニ至リテハ共産党ノ勢力日々ニ増大シツツアル模様ナルカ故最高軍憲ノ取締ハ固ヨリ其充分ナルコトヲ期待スヘカラス從テ南軍ノ当地ニ襲来スル場合ニハ北京、天津ノ警備三付キ多大ノ懸念アルハ勿論ノ次第ナルカ徐州蚌埠ノ兩地陥落スル場合仮令南軍当地ニ尚襲来セサル間ニ於テモ或ハ深刻ナル事件發生ノコトナキヲ保シ難ク旁此等ノ場合ヲ推想スルニ別電(三七八文書)第三八四号司令官會議決議第一項列國側ノ兵力ヲ二倍ニ増援スルコトハ最実際ノ事情ニ適スルモノト思考ス南軍襲来ノ場合ニ忘スル為兵力ヲ三万ニ増加スルコトハ固ヨリ万全ヲ期スル

(二) 南方ニ於ケル排外運動北支那ニ瀕蔓セントスル狀況ニ於テ北京及天津ヲ防備シ最少限北京大沽間ノ交通ヲ維持センカ為ニハ直ニ列國軍ノ總兵力ヲ新裝備ヲ有スル二万人(航空空隊ヲ含ム)ニ増加スルヲ必要ト認ム尚増援隊ノ為ニハ秦皇島及大沽間ノ交通維持ヲ必要トルヲ以テ之力為ニハ更ニ五千ノ兵力ヲ必要トス

天津へ転電セリ

379 昭和2年4月10日 在中国芳沢公使より  
幣原外務大臣宛(電報)

京津地方在留外国人の保護に外國兵力不充分  
の旨各國代表意見一致について

北京 4月10日前發  
本省 4月10日前着

第三九六号

日英米仏伊ノ代表者討議意見交換ノ結果廣東派ノ北支及北京ヘノ到来ハ外国人ノ生命財產ノ安全ニ重大ノ危惧ヲ与フルモノナルコトヲ認ムルニ一致セリ  
其ノ政府完全ニ共產派及勞農ノ勢力下ニ在ル漢口ノ現状共產派地方支部ノ企ニ係ル南京虐殺事件ヲ初メ揚子江流域

ニ頻出スル不祥事件上海ニ於テ蔣介石ノ代表スル国民党穩

和派カ過激ナル工人团体ニ依リ圧倒サレツツアル事実「ダ  
リ」銀行捜査ノ際ノ押収文書ニ依リ明ラカナルカ如ク組織

的排外宣伝カ南方諸省ハ勿論天津北京方面ヨリ滿州ニ至ル

迄組織的ニ遂行サレツツアルコト等ノ諸事実ハ張作霖ノ失

敗ト共ニ共産派カ労農ノ援助ヲ得テ南京以上ノ混亂ヲ北方

ニ於テモ惹起セムトスルモノナルコトヲ示スモノナリ

事情右ノ如クナルヲ以テ関係国代表等ハ其ノ責任上其ノ本

国政府ニ対シ北京天津ニ於ケル外国在留民ノ安全ヲ保障ス

ル為必要ノ措置ヲ講スルノ要有ルコトヲ稟申スルノ義務ヲ

有スト信ス北京天津ニ於ケル四千名ノ現在兵力ハ Points

d'appui ヲ防御シ居留地公使館区域ノ保全ヲ確実ニシ且北

京ト海港トノ交通ノ自由ヲ確保スルニハ不充分ナリト認ム

天津ヘ転電セリ

380 昭和2年4月10日

在天津日本人商工会議所草刈会頭より  
幣原外務大臣宛(電報)

天津地方在留邦人の生命財産保護のため我が

駐屯軍増員方切望について

天津(奉天経由 4月10日後発)

ケニテ不祥事件ヲ未発ニ防キ居留民カ喪家ノ狗ノ如ク窮迫  
遁竄スルノ醜態ヲ免レ帝国ノ威信ヲ永ク北支那及満州ニ繋  
ク所以ノモノ又実ニ此駐屯軍臨時大増員ノ一舉ニ在リト信  
ス此際機宜ノ措置トシテ当地方居留民ノ生命財産ノ保護ニ  
充分ナル程ノ大部隊ノ臨時増員ヲ迅速ニ実現セラル様切  
望ニ堪ヘス

右当會議所ノ決議ニ依リ当地実状ヲ具申シテ謹テ請願ニ及

フ何卒閣下ノ御清鑑御高配ヲ仰ク 四月八日

同文三

天津居留民団行政委員会ハ南京並漢口ニ於ケル不幸ナル事

態ノ発生ヲ遺憾トシ更ニ北支那ニ於テモ同様危険ノ釀成セ  
ラルヘキ機運ノ日々ニ濃厚トナリツツアル現下ノ形勢ニ鑑

ミ左記事項ヲ決議シ閣下ノ御清鑑御高配ヲ仰ク

政府ハ可及適當ノ増兵ヲ行ヒ我居留民ノ不安ヲ一掃セラレ

ンコトヲ切望ス

理由、過去三十四年来当地ニ於ケル數次ノ兵變ニ際シテハ

單ニ敗殘兵ノ侵入ニ對スル防備ニ過キサリシモ今次ノ事

変ニシテ若シ北支一帶ニ波及シ來ルトセハ之ガ対策ハ一

ニ兵力ノ充実ニ俟ツノ外ナキハ南京漢口ノ實例ニ徵シ火

本省

4月11日前着

天津居留民一同ハ南京及漢口ニ於ケル共産派ノ計画的暴虐

ニ鑑ミ或ハ近キ将来ニ於テ天津カ同様ノ危険暴露セラレム

カラ深ク憂慮シ非常ナル不安ヲ感シツツアリ北支那ニ於ケ

ル通商ノ中心地タル天津カ若シ共産派及烏合ノ暴徒ノ蹂躪

ニ委セラルルナラハ其惡化ノ勢力ハ直ニ満州ニ波及スルニ

至ルヘク又頻年ノ天災地禍ノ為疲弊ノ極ニ在ル天津居留民

ハ其二十余年ノ努力ヲ一朝ニシテ廢墟ニ帰セシメラレ恐ラ

ク再起復興シ能ハサルニ至ルヘシ是啻ニ現居留民カ死地ニ

陷ルコトニナルノミナラス北支那ニ於ケル邦人通商企業ノ

根拠ヲ崩壊セシメ海外發展ノ機運ニ一大頓挫ヲ与フル結果

ヲ招来スルモノト認メラル大局ヨリ対支平和政策ヲ堅ク維

持スヘキコトハ勿論ナレトモ地方的ニ共産派ノ計画的犯罪

行為ヲ予防スル自衛手段トシテ相當兵員ヲ増駐セシムルハ

決シテ此根本方針ニ背馳スルモノニアラサルコト中外等シ

ク相信シテ疑ナキ處ナリ此際帝国ノ北支那駐屯軍臨時大增

員ハ居留外国人ハ固ヨリ穩健ナル支那民衆ノ大多数カ地方

ノ治安維持上衷心ヨリ之ヲ歓迎セムトスル實際ノ形勢ニ在

リト認ム侮ルヘカラサル大部隊カ嚴トシテ駐屯セルコト文

382 昭和2年4月13日

在天津行政委員会臼井(忠三)会長より幣原外務大臣宛(電報)

南京、漢口の事態に鑑み適當な増兵を行ない

在留邦人の不安一掃を切望について

奉天 4月13日後発  
本省 4月14日前着

381 昭和2年4月12日

幣原外務大臣より  
幣原外務大臣宛(電報)

第九駆逐隊を第一遣外艦隊に編入し閩東州お

よび華北沿岸の警備担任方について

本省 4月12日発

第一九五号

貴電(三七七文書)

海軍省ニテハ今回舞鶴要港所属第九駆逐隊(桑、櫻、椿ノ

四隻)ヲ第一遣外艦隊ニ編入シ至急準備ノ上先ツ旅順ニ廻

航セシメ第三戦隊司令官ノ指揮ヲ受ケ主トシテ閩東州及北  
支那沿岸ノ警備ニ當ラシムルコトトナリ(鬼怒、由良ハ從

ヲ賭ルヨリモ明カナリ而シテ我天津ノ如キハ多年粒々努力ノ結晶ヲ以テ築成シタル地且在留民多キ北支那貿易ノ根拠地ナルカ故三仮リニ一時的ニモ居留民ノ撤退スルトセハ其ハ対支外交ノ放棄ヲ意味スルモノトシテ恐ラクハ我當局ノ真意ニ非サルヘシ茲ニ於テ我等居留民一同ハ死ヲ賭シテモ此ノ地ヲ引揚ケサルノ覺悟ヲ有ス然ルニ

一、事実南方ヨリ便衣隊ノ潜入及其宣伝等ノ為メ何時如何ナル事変ノ突発スルヤ全ク予想シ難キコト

二、時恰モ白河ノ泥砂沈積ハ漸次回復ノ徵アルモ泥砂ハ下流ニ推移シツツアルヲ以テ或ハ大沽河口ニ一時非常ノ堆積ヲ見ルヤモ計リ難ク自然茲一二ヶ月間ハ到底船舶驅逐艦ノ溯航安全ナラス從テ急速派兵ノ計画ニ狂ヒヲ生スル恐アルコト

等々ノ惡材料ハ幾多ノ浮説ト相俟テ居留民心ノ動搖抑止シ難キノミナラス荏苒期ヲ失セハ禍害或ハ測ルヘカラサルモノアルヲ保シ難シ希クハ迅速派兵ノ措置ヲ執ラレ兵力ヲ以テ居留民ノ生命財産ヲ擁護セラレンコトヲ望ム

四月十二日

<p>383 昭和2年4月21日 在中国芳沢公使より ソ連大使館の警備について</p> <p>往電第四四六号 二関シ</p> <p>守備隊長ノ報告ニ依レハ四月二十一日先任米國隊長ヨリノ要求ニ依リ下士以下五名ヲ派遣シタルカ先任隊長ハ各國兵ヲ以テ問題ノ露国外壁及其内部幅三間位ヲ占領シ防備ニ当ルコトトナリ一旦引揚ノ上歩哨ヲ立テ警戒スル由ナリ</p>
<p>第四六四号</p> <p>本省 4月21日後発</p>
<p>384 昭和2年4月22日 在中国芳沢公使より 田中外務大臣宛(電報)</p> <p>英國の居留民撤退計画について</p> <p>北京 発</p> <p>守備隊長ノ報告ニ依レハ四月二十一日先任米國隊長ヨリノ要求ニ依リ下士以下五名ヲ派遣シタルカ先任隊長ハ各國兵ヲ以テ問題ノ露国外壁及其内部幅三間位ヲ占領シ防備ニ当ルコトトナリ一旦引揚ノ上歩哨ヲ立テ警戒スル由ナリ</p>
<p>第四六七号</p> <p>本省 4月22日前着</p>
<p>385 昭和2年5月9日 在天津加藤總領事より 田中外務大臣宛(電報)</p> <p>第九駆逐隊の天津引揚について</p> <p>天津 5月9日後発</p> <p>本省 5月9日後着</p> <p>(三)南軍カ黄河ヲ渡リタル場合ニハ残余ノ在留民全部引揚クルコト云フニアリテ即チ北京天津ヨリ引揚クト云フニアリテ北支那ヨリ全部引揚クト云フ趣意ニアラサル次第ナリ</p> <p>上右ハ日米仏伊四ヶ国政府ニ其國駐在大使ヨリ通告スル筈</p>
<p>第九駆逐艦、櫻ハ芝罘回航ノ為去ル一日出港シタルカ殘留二隻桑椿モ來ル十三日旅順ニ來着サル御慰問使奉迎ノ為十一日發一先ツ当地ヲ引ケタキ旨日高司令ヨリ申出アリ本官モ目下ノ處引続キ同艦隊ノ在泊ヲ必要ト認メサルヲ以テ右申出ヲ応諾セリ</p> <p>在支公使ヘ転電セリ</p>
<p>386 昭和2年5月19日 在中国芳沢公使より 田中外務大臣宛(電報)</p> <p>華北における五国軍隊の現在兵数および将来の増兵計画について</p>

天津、濟南、奉天へ転電セリ

(1) 第五六四号  
往電第六二号ニ関シ

北省 5月19日後着 発

十九日ノ五国会議ニ於テ為念北支那ニ於ケル五國ノ現在兵數並将来ノ増兵計画ヲ確メタル處仮國ハ現在三個大隊ヲ有シ此外二個大隊及一個砲兵隊(バッタリー)ハ目下途中ニ在リ更ニ将来必要ノ場合ニハ印度支那ヨリ二個大隊ヲ招致シ得ヘシ(其場合ニハ七個大隊トナル)米國ハ現在千五百人ナルカ将来上海及馬尼刺ヨリ各々千五百人宛合計三千人ヲ招致シ得ヘシ尚此外必要ノ場合ニハ馬尼刺ヨリ一千人ヲ招致シ得ルコトトナリ居レリ右ハ皆「マリーンズ」ナリ伊國ハ現在一個大隊将来必要ノ場合ニハ直ニ上海ニ於ケル軍艦ヨリ若干ノ増兵ヲ為シ得ヘク此外必要ニ依リ本国ヨリ數百ノ増兵ヲ為シ得ルコトトナリ居レリ英國ニ就テハ既報ノ通ナルカ四國公使ハ北支那ニ於ケル事態悪化ノ場合ニハ日本ハ現在ノ八個中隊ヲ以テ充分ナリトスル意見ナリヤ將又事態如何ニ依リテハ滿州ヨリ援軍ヲ求メ得ヘキヤト尋ネタルニ付

北京 5月25日後発  
本省 5月26日前着

388 昭和2年5月26日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

### 緊急事態発生の際の日本の措置に關し英國側

#### 不満表明について

北京 5月26日前発

本省 5月26日後着

第五八一號

五月二十五日外交團會議ノ際時局ニ付意見ヲ交換シタル処英國代理公使ハ往電第四六七号中記載シタル通リノ英國居

留民撤退計画ヲ述ヘ米國公使ハ目下滯京中ノ「スマツドレイ・バツトラー」<sup>(三八六文書)</sup>將軍ト同公使トノ間ニ南軍徐州ヲ占領シ

タル場合ニハ往電第五六四号記載ノ措置(馬尼刺及上海等ヨリ兵ヲ呼寄セルコト)ヲ採リタル後必要ノ場合非戰鬪員ヲ引揚ケシムルコトニ仮ニ取極メタル旨ヲ述ヘ其他種々ノ意見モ出タルカ本使ハ北支地方カ動乱ノ禍中ニ入ラントスル場合適當ト認ムル機会ヲ以テ外交團ヨリ南北双方ノ戦争責任者ニ対シ外国人ノ生命財産ノ保護方ニ付嚴重ナル警告ヲ与フルコトトシテハ如何ト述ヘタル處各公使トモ異存ナク其ノ結果各公使ニ於テ其ノ適當ナル機会ト認メタル際首席公使ニ會議招集方ヲ要求シテ外交團會議ヲ開キタル上警告ヲ与フルコトヲ協議スルコトトナリヤモ知

書記官數名ノ兵員ヲ残シ全部ヲ引揚クルコトトナルヤモ知

本使ハ日本政府ノ意見ニテハ差当リ大体現在ノ八個中隊ニテ充分ナリトノ意見ナルモ事態ノ悪化モ要スルニ程度ニモ依ル次第ニ付非常ニ悪化シタル場合ニハ滿州ヨリ援軍ヲ求メ得ルコトト思考スルモ援軍ノ程度ニ付テハ本使ニ於テ未タ言明シ能ハサル處ナリト答ヘタル處英國代理公使ハ英國ハ日本ノ態度ニ依リ増兵ノ計画ヲ有スル次第ニ付日本カ果シテ滿州ヨリ増援シ得ヘキヤ否ヤ増援シ得ルトスレハ其ノ兵數等ヲ承知シ度キ旨述ヘタルニ付本使トシテハ只今ノ処前記ノ答弁ヲナシ得ルノミナルカソレ以上ノコトハ政府ニ請訓ノ必要アリト答ヘ置キタリ就テハ右様御承知ノ上何分ノ儀御電示ヲ請フ本件ハ冒頭往電ニテ御承知ノ通發展如何ニモ関連スル次第ニテ相當重大性ヲ帶フルモノナリ為念尚現在北京ニ於ケル各國兵數ハ日本三百ノ外米四百、英二百、仏二百五十、伊百二十、計千二百七十?名ナリ(ママ)天津、濟南、奉天へ転電セリ

387 昭和2年5月25日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

華北に動乱波及の際南北双方に警告発出について

レス各国トモニ増兵ノ計画ヲ為シツツアル際日本独リ同意

セサルノ理由ヲ解シ難シト述ヘタルニ付本使ハ日本政府ハ

増兵ニ反対シタルニアラス緊急事態発生以前ノ今日ニ於テ

増兵ノ約束ヲ為ス能ハスト主張スルモノニテ将来ノ緊急事

態ニ於ケル増兵方ニ就テハ其場合ニ至リテ考量スルコトト

シタシトノ趣旨ナリト述ヘタル處其点ハ贊同シ難キ處ナリ

ト答ヘタル上何レ関係国会議ノ際日本公使ノ態度ニ対シ不

満ヲ述フルコトモ或ハ有之ヘキニ付予メ承知ニ入レ置ク

(脱) 述ヘタルニ付本使ハ日英両国政府間ニ於テ一方ハ今

ヨリ兵數ヲ取極メ置キタシト主張スルニ反シ一方ハ緊急事

態発生ノ上ニテ之ヲ取極ムルヨリ致方ナシトノ意見ニテ要

スルニ意見ノ相違ナリト答ヘ置キタリ

天津、奉天、濟南へ転電セリ

389 昭和2年5月27日 在中國芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)

#### 英國代理公使英國軍の北京及び鐵道沿線より

##### の撤兵を示唆について

北京 5月27日後発  
本省 5月27日後着

ニ付本使ハ我方ノ立場ヲ説明シタル後山東派兵ノ報道ニ付テハ未タ閣下ヨリ何等ノ公報ニ接セサルニ付事実ナルヤ否ヤヲ承知セサル旨答ヘタル上同代理公使ニ對シ英國側ニ於テハ危急ノ場合北京守備隊ヲ引揚ケ且鐵道沿線ヨリモ撤兵スル趣意ナリヤ又果シテ然リトセハ引揚ケタル兵ハ天津ニ之ヲ纏ムル考ヘナリヤト尋ネタル処

(2) 同代理公使ハ危急ノ事態ニモ依ルヘケレトモ危急ノ場合ニ

ハ北京及鐵道沿線ヨリ之ヲ引揚ケ差当リ多分天津ニ纏ムルコトナルヘク要スルニ各國側ニ於テ英國守備兵ヲ當ニセラレサル様致シタシトノ趣旨ナリト答ヘタリ其他一二ノ公使ヨリ多少ノ陳述アリタル後散会セリ尚英國代理公使ニシテ万一日本政府ノ態度ニ對シ不満ヲ述ヘタル場合ニハ一擊ヲ加フル所存ナリシモ何等右様ノ言説ナカリシ為本使モ之ヲ控ヘ置キタルカ昨夜宴会ノ席上仏獨公使等カ本使ニ内話シタル処ニ依レハ同公使等ハ皆英國側ノ態度ヲ以テ愚挙ナリト言フニ一致シ居リタリ米國公使モ亦最初英國側ノ態度ニ顧ミ頗ル苦慮シ居タル模様ナリシモ本使ノ説明ニ依リ大ニ安心シタル模様ニテ此儘押進ムコトナルヤト見受ケラ

レタリ本使ハ米獨二公使ニ對シ若シ「ランプソン」公使在京

第五八九号

往電(二六八文書)  
第五八五号ニ關シ

二十六日ニハ外交團方面ニ於テ英國側カ公使館及守備兵全部撤退方ヲ計画セリトノ報道ノ為大分「センセイション」

ヲ惹起シ首席公使ノ如キハ特ニ本使ヲ來訪シテ意見ヲ尋ね

タルニ付本使ハ貴電第二八九号御来示ノ次第ニ基キ帝国政

府ノ所見ヲ然ルヘク説明シタル上日本側守備兵二個中隊ハ

必スシモ多數トハ申難キモ各國守備兵ト協調シテ其最善ヲ

尽スヘキハ勿論ナリト説明シタル處首席公使モ大イニ安堵

セリト述ヘ取りタルカ其後米國公使ニ會見ノ際同公使モ

亦首席公使同様ノ質問ヲ為シタル上米國側トシテハ英國側

撤退ノコトハ無関心ナル能ハサル次第ニテ誠ニ当惑セリト

述ヘタルニ付本使ハ首席公使ニ對シ為シタルト同様ノ説明

ヲ与ヘタル處米國公使ハ大イニ「エンカレッジメント」ヲ

得タリトテ別レタリ其後英國代理公使ノ請求ニ依リ二十七

日外交團會議開催セラレ先ツ代理公使ヨリ往電第五八五号

同代理公使ノ談話ト同様ノ趣旨ヲ述ヘタル上北支防備ニ閑

スル日本側ノ立場ヲ尋ネ且今朝ノ新聞報道ニ依レハ日本ハ

山東省ニ派兵スヘシトノコトナルカ事実ナリヤト尋ネタル

セハ斯ノ如キコトナカルヘク同公使ハ六月三日英國皇帝誕生日迄ニハ帰京スヘキ旨本使ニ語リタル次第三付数日ノ後ニハ帰京スヘク從テ多分無事ニ收マルモノト見受ケラルト述ヘタル處同公使モ之ヲ首肯シ居タルカ何分英國代理公使カ頻ニ英國政府ノ意見トカ參謀本部ノ決定トカ振回ハシタル為「センセイション」ヲ起シタル次第ニテ本使ノ見ル処ヨリスレハ右等ノ意見若ハ決定ハ或ハ事実ナルヘキモ同代理公使ノ性格及其漢口交渉以來多少神經過敏ニ陥リタル處モ与テ力アルヤニ想像セラル英國側今後ノ態度如何ハ尚注意スヘキモ只今ノ觀察御参考迄申上ク

天津、青島、奉天へ転電セリ

390 昭和2年6月(2)日 在上海矢田總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

#### 日本公使および在留邦人の北京引揚げはあり 得ざる旨ランプソン英公使に談話について

上海 6月2日後着

本官「ランプソン」ト往電第八一〇号ノ會見ノ際同公使ハ

北方ノ形勢ニ付何カ最近ノ情報ナキヤト質問シタルニ付在

支公使奉閣下宛電報第六〇六号ノ要点ヲ話シタルニ北京方

面危険トナリタル場合日本ハ公使館ヲ保護スル計画ナリヤ

ト言ヘルニ付本官ハ右ハ意外ナル質問ニシテ濟南府ノ奥地

ニアル二千ノ在留民ヲ保護スルニ付テモ現地ニ陸兵ヲ派遣

シ支那側ノ悪宣伝ニ拘ハラス是ヲ実行セントスル帝国政府

カ北京公使以下在留民ヲ引揚ケントスルカ如キコトハ考慮

ニ上ラサル処ナリト確信スル旨ヲ述ヘタルニ夫レニテ安慮

ナリ自分ハ日本ノ山東出兵ハ賛成ナリ北京ノコトヲ心配セ

ルハ実ハ米国側ニハ北京ノ放棄論アリ日本カ之ニ倣フコト

ナキヤト危フミタル為ナリト述ヘ外交團ノ北京引揚ケノ如

キハ「アンシンカブル」ナリト言ヘルニ付本官ハ米国人ハ

由來好ンテ考ヘサルコトヲ考ヘル國民ナリト答ヘタルニ同

公使ハ咲笑シ名言ナリト之ヲ繰返シ喜ヒタリ

尚同公使ハ来ル四日北京ニ向ケ當地出發ノ旨ヲ語レリ

北京、漢口、奉天、天津、濟南、青島、廣東へ転電セリ

391 昭和2年6月4日 在天津支那駐屯軍司令部

#### 列國軍司令官會議議事録

保ノ為メ予メ國際列車引用輪軸材料二列車分ヲ京奉鐵路  
當局ニ要求シ押收シ置クコト』ニ閔シ意見交換ノ後先任司  
令官ノ名ヲ以テ左記輪軸材料ヲ要求シ受領ノ上ハ旧露界開  
灤礦務局石炭置場内引込線ニ保留シ列國ヨリ所要ノ護衛兵  
ヲ付スルコトニ議決ス

#### 左記

國別	兵數	到着予定期日
英	約九〇〇	六月九日
米	約一、八〇〇	六月五日
計	約三、七〇〇	六月十四、五日

到着ヲ予期シ得ル左記兵數約三、七〇〇ヲ合スレハ總兵數  
約九、六〇〇ニ達スヘシ

#### (4)北京、海濱間ノ交通確保ニ關スル件

提案者タル日本軍司令官ヨリ左ノ如ク説明ス

前回ノ會議ニ於テ仏司令官ヨリ最少限度タル北京塘沽間  
交通維持ノ為メ所要移動兵力ノ一案ヲ示サレタリ此ノ移  
動兵力ト守備区域トノ関係ヲ如何ニスヘキヤ  
情況変化スルニ於テハ實施ヲ必要トスヘキヲ以テ予メ基  
礎的事項ニ就キ意見ヲ承リタシ  
決議ス

#### (3)各國軍總兵力

列國軍現在總兵力五、八六六名ニ本月十五日迄ニ北支那ニ

### 列國軍司令官會議々事錄

昭和二年六月四日

於日本軍司令官々邸

#### 一、列席者

日 高田中將 幕僚（以下同シ）

英 ヒース大佐

米 カストナー准將

仏 ウンチゼール大佐

伊 ガスピア大佐

#### 二、議事ノ概要

高田司令官ヨリ戰局一般ノ説明ヲ行ヒタル後議事ニ移ル

##### (1)彈薬輸入ニ關スル海關規則ニ就テ

英國軍司令官ノ提案ニ基キ討議ノ後左ノ如ク決議ス

一、先任司令官ヨリ海關長宛列國駐屯軍所要ノ彈薬輸入

ニ當リ現行港務規定ヲ適用シテ其ノ数量等ニ關シ制限ヲ

加フルカ如キハ許シ難キ旨通告ヲ發スルコト

二、前項ニヨリ満足ナル回答ヲ得サルニ於テハ本問題ヲ

領事団ニ移スコト

(2)國際列車用輪軸材料ノ保留ニ關スル件

英國軍司令官ノ提案ニ係ル『事變ニ際シ鐵道ノ自由交通確

近ク期待シ得ヘキ増兵ヲ合スル總兵數約一万ヲ以テスレ  
ハ事變ニ際シ北京塘沽間ノ交通線ヲ確保スルコトカ最少

限度ナルヘシ從テ塘沽山海關間ニハ十分ナル手ヲ延スコト至難ナルヘシ何レニセヨ北京塘沽間ハ如何ナル犠牲ヲ

払フモ之ヲ確保セサルヘカラス

然ラハ北京塘沽間ノ鐵道守備ハ平時ニ於テハ英仏兩軍ノ担任ナルモ事變ニ際シテハ日、米、伊、三国軍モ右区間内ニ割込ミ列國協同ノ下ニ自由交通ヲ確保スルヲ必要トスヘシ

日司右ノ場合各國軍ノ割当ヲ如何ニスヘキヤ

英司英軍ハ豊台ニ兵員ヲ收容シ得ル永久設備ヲ有スルヲ以テ該地ヲ含ム地区ヲ配当セラレタシ

仏司仏軍ハ塘沽ニ約一大隊ヲ收容シ得ル兵舎ヲ有スルニ付該地ヲ含ム地区ヲ配当セラレタシ

米司本国政府ハ事變ニ際シ要スレハ米國公使館ヲ北京ヨリ天津ニ引揚ケントスル意向ヲ有スルニ付其ノ場合ヲ顧慮セハ米軍ハ天津塘沽間ニ割込ムノ外ナカルヘシ

本問題ニ關シテハ北京ノ米國公使ト打合セ本国政府ノ意向ヲ確メタル上ナラテハ確答シ難シ

日司本問題ハ米軍司令官ノ自國公使ト打合セ後更ニ討議スルコトトセん

日司線内ニ停止セス又ハ排外的意志ナキニ於テハ通過ヲ許シテ可ナルヘシ

英司特定ノ線内ニ一旦支那軍隊ヲ入ルトキハ爾後如何ナル事端ヲ惹起スルニ至ルヘキヤ予測ヲ許サス故ニ支那

軍隊ハ鐵道ノミノ利用ヲ許シ且ツ停車場ハ之ヲ相當兵力ニテ監視シ乗下車ヲ禁スルコトシタシ

仏司支那軍隊ノ鐵道使用ハ内乱ノ場合交戦団体ノ何レノ一

方ト雖モ排外的意志ナキトキニ於テノミ許サレアリ從

テ支那軍カ外國ニ対シ敵意ヲ有スル場合ニハ天津ヲ通過スル鐵道及一般道路ハ支那軍ニ使用セシムヘカラサルナリ而シテ此場合ニハ外國軍ハ天津全市ヲ管理セサルヘカラス

特定ノ新線ハ張作霖軍ノ退却スル迄ハ見合せ退却後ニ於ケル支那軍隊（南方軍ヲ指ス）ノ態度ニ依リテ我々外國軍ノ採ルヘキ態度ヲ決スルヲ可トセン前記ノ如キ新線ヲ設定スルモ支那軍隊ヲシテ其ノ線内ノ通過ヲ許スニ於テハ新線設定ノ効果ナカラン

伊司仏司ノ意見ニ同意

#### (5) 天津防衛ニ関スル件

日司提案者トシテ左ノ如ク説明ス

從来ノ支那ノ動亂ニ際シテハ列國軍總兵力寡少ナリシ為メ各國租界周境ヲ防護スル如ク協定シアリシカ今回ハ利用シ得ヘキ兵數モ増加セルニツキ支那ノ敗兵、交戰團體等ヲ各國租界ニ近接セシメサル為メ更ニ外方ニ於テ拒止シタキ意見ナリ之カ為概ネ英支両競馬、東機器局ヲ連ヌル線ヲ採用シ此ノ線ニハ各國軍協同シテ一部ノ軍隊ヲ出シ要スレハ武力ヲ以テ拒止シ応セサル時ハ武装解除ヲ行フヘシ

前記ノ線ハ元ヨリ防護ノ主線トスヘキニアラス之レ現在兵力ニ比シ正面長延セルヲ以テ警戒線トナス案ナリ

仏司右ノ案ヲ更ニ拡張シ支那街ヲ全部包含シ同時ニ支那側警察ヲ列國軍ニ依リ統制シ支那街内ノ秩序維持ノ行動ヲ支援スル如クセハ如何

支那交戰團體ノ鐵道使用ハ一九一二年外交團ニ於テ之ヲ認メアルヲ以テ鐵道ニヨル支那軍隊ノ天津通過ヲ阻止スルコトハ不可能ナルヘシ

英司前記新線内部ヲ支那軍カ徒步ニテ通過セントスルヲ許

日司本件ニ關スル意見ハ十分一致スルニ至ラナルヲ以テ後日再ヒ審議スルコトトセん

392 昭和2年6月8日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

中國軍包囲の際公使館および守備軍撤退の方針との米公使談話について

北京 6月8日後発  
本省 6月9日前着

第六五一号

北京、天津ヨリ米國軍隊撤退ノ計画アル趣頻々伝ヘラルヲ以テ往電（三八九文書）第五八九号以來米國側ノ態度ニ変化ヲ來シタルヤヲ慮リ六月六日米國公使ヲ訪問シ本問題ニ關シ質問シタル處同公使ハ四月中旬時局面白カラサル節本国政府ハ義和團事變ノ際ノ如ク攻囲状態 *state of siege* ノ危険ヲ冒スヨリハ寧ロ公使館及守備隊ヲ安全地ニ移ス方可然而シテ引揚ノ時機ニ關スル裁量ハ自分ニ一任スル旨ノ電訓ニ接シ（在米大使來電第一七六号参照）右電訓ハ今日ニ於テモ効力ヲ有スルモノナルモ果シテ攻囲状態ノ出現スヘキヤハ固ヨリ疑問ナルノミナラス只今ノ処自分ニ於テモ之ヲ予測スルコ

ト能ハサル次第ニ付現ニ本日其旨本国政府ニ電報シ置キタリ從テ暴徒ノ襲撃位ニテハ勿論撤退セス尤モ婦人子供等ハ今ヨリ安全地ニ移スコトモアルヘシト述ヘ猶本使ヨリ種々質問シタルニ対シ其答ヘタル處ヲ総合スルニ北京、海浜間ノ交通ニ就テモ現在ノ如キ状況ニテハ列國ト協調シテ其守備ヲ分担スヘキモ鐵道線路ニセヨ北戴河ニセヨ（同地ハ事實上英米人ノ避暑地ナリ）攻囲状態ト同様ノ如キ事態ニ至ラハ鐵道線路ノ守備ヲモ分担セス又北戴河ニ在ル避難者モ運送船ヲ秦皇島ニ呼寄セ引揚ケシムル筈ナリト語リタリ天津へ転電セリ

393 昭和2年6月9日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

華北に一千名の英兵を派遣すべき旨の英公使

談話について

北京 6月9日後発  
本省 6月9日後着

第六五三号  
六月八日英國公使來訪ノ節京津間ノ警備ニ関シ英國政府ハ上海ニ於ケル同國軍隊カ上海防備軍ナル名称ヲ有スル事実

について

北京 6月10日後発  
本省 6月10日後着

第六六九号

六月九日「ダンカン」少将来訪ノ際北支守備ニ關シ意見ヲ交換シタルカ同少将ノ説明ニ依レハ英國側ノ希望ハ結局当

地方面形勢悪化ノ際既ニ到着シタル一大隊ノ外更ニ香港ヨリ一個旅團ヲ呼寄スル計画ナルモ準備及輸送等ニ約二週間

ヲ要シ急場ノ間ニ合ハサルニ付英國分担ノ鐵道守備区域タル北京、楊村間ノ守備ニ就テハ香港ヨリ旅團ノ到着スル迄

約十日間日本側ニ於テ守備ヲ引受け吳、レ間敷キヤトノ趣意

ニ帰著ス依テ本使ハ右ハ天津ニ於ケル我司令官ノ權限内ニ属スル事項ナル故本使ヨリ司令官ニ意見問合方取計フヘシト答ヘ置キタリ

猶「ダンカン」ハ本庄中將、松井少将ニモ會見同様ノ談ヲ為シ本使ヨリモ右両武官ノ意見ヲ聽取り天津司令官ヘハ松

井少将ニ依頼シテ通告ノ上司令官ヨリ本使ニ回答ノコトニ取計ヒ置キタリ

天津へ転電セリ

## 五 北伐と租界問題

ニ顧ミ其一部ヲ割キテ京津間ノ守備ニ任セシムルコトニ就テハ内政上ノ困難アリ即チ労働党カ上海守備軍ヲ北支ニ振向クルノ不都合ヲ攻撃スルコト是ナリ乍然日本政府ニ於テ増兵ニ内定シタル趣ニ付漸ク一千名ヲ振向クルコトシタル次第ナルカ北京公使館区域外ニ於ケル居留民ノ保護ニ就テハ差当リ婦人子供等ヲ北戴河ニ避難セシムル筈ニテ其結果（）北京居留民ノ保護（）鐵道ノ守備分担及（）北戴河ノ守備ノ問題發生スル次第三テ右ニ就テハ日本側ノ意向承知シタシト述ヘタルニ付本使ハ北京ニ於ケル日本居留民ノ保護ニ就テハ目下本使ニ於テ具体案考究中ナリ鐵道沿線ニ於ケル守備分担等ノ問題ハ要スルニ天津ニ於ケル各國司令官ノ討議ニ譲ル方可然旨指摘シ置キタルカ英國公使ハ頻ニ本問題ノ重要性ヲ説キ猶今後本問題ニ就キ重ネテ本使ト會議シタキ旨ヲ述ヘ居タリ

天津、奉天へ転電セリ

394 昭和2年6月10日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

香港より英旅団到着まで北京・楊村間の守備  
を日本側にて引受け方ダンカン少将より依頼

第六五四号

395 昭和2年6月(14)日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛（電報）

綏遠区内の官衙、商店に青天白日旗掲揚等の

在張家口領事よりの情報について

北京 発  
本省 6月14日前着

第六七七号

在張家口領事発本使宛電報

第二二一号

大臣へ転電アリタシ

第六号

綏遠区内ニテハ昨十一日以来官衙商店ニ青天白日旗翻り綏遠区及大同ヨリ察哈爾区ノ境界ニ向テ土匪討伐ノ名ニテ徐々ニ出兵シツツアリ又国民党員ハ三民主義ヲ懲憲シテ帝國主義奉天系軍閥士豪劣紳等ノ打破ヲ標語トシ漸ク奉天系ニ

反対ノ態度ヲ現ハシ来レリ

396 昭和2年6月14日 在中国塊臨時代代理公使より  
田中外務大臣宛

米國軍隊の增遣に対する北京政府の抗議につ

いて

公第六〇三号  
（6月20日接受）

昭和二年六月十四日

在支那

臨時代理公使 堀 義貴（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

米國軍隊増遣ニ対シ支那政府抗議ニ閔スル件

六月二日在支米國公使ハ外交部ニ対シ同月四日頃米國陸戰

隊天津守備隊増援トシテ大沽ニ到着スル筈ナルカ右ハ專ラ

在支米人ノ生命及財產保護ノ為ニシテ勿論北支動亂ノ場合  
支那側ニ於テ在支米人ノ生命及財產ニ対シ完全ナル保護ヲ

与フヘキヲ期待スルモ南支ニ於ケル最近ノ出来事ハ米國政  
府ヲシテ同種事件ノ再発ヲ阻止スル為必要ナル措置ヲ執ル

ノ余儀ナキニ到ラシメタルナリ尚右陸戰隊ハ其ノ必要ナキ  
ニ至ラハ直ニ撤退セシムヘキモノナル旨公文ヲ以テ通告シ

タル所外交部ハ之ニ対シ同月七日付公文ヲ以テ

〔〕團匪事件最終議定書調印国ハ北京ト海浜間ノ交通維持  
ノ為軍隊ヲ駐屯セシムルノ権利ハ之ヲ有スルモ右軍隊

ハ當該目的ヲ達スルニ必要ナル丈ノ數ニ限定セラルヘ

キモノニシテ無制限ニ之カ増援ヲ為シ得ヘキモノニ非  
ス  
〔〕北支ノ形勢ハ即今極メテ平穩ニシテ何等北京ト海浜間  
ノ交通ニ支障アルノ虞ナシ  
〔〕在留外国人ノ生命及財產ノ保護ニ関シテハ本政府力極  
力注意シ居ル所ニシテ何等軍隊ヲ增遣スルノ必要ナシ  
〔〕北支ハ南支ト事情ヲ異ニスルヲ以テ南支ニ於テ發生シ  
タル事件ニ藉口シテ北支ニ軍隊ヲ增遣スルヲ得ヘキヤ  
否ヤ  
而シテ米國ノ斯ル行動ハ華府會議ニ於テ列國力議決セ  
ル支那主權尊重ノ精神ニ違反スルモノナレハ貴公使ハ  
速ニ本抗議ノ趣旨ヲ本国政府ニ転達シ依テ以テ米國政  
府カ米支間從來ノ友好關係ヲ紛乱セシメサランカ為將  
又團匪事件最終議定書ノ精神ニ違反セサランカ為出來  
得ル丈早ク增遣軍隊ノ撤退方取計ル様致度  
旨回答セル趣ニテ今般上記米支間往復公文新聞紙ニ發表セ  
ラレタルニ付右記事切抜相添ヘ茲ニ報告ス

397 昭和2年6月14日 在天津加藤總領事より  
昭和2年6月14日 田中外務大臣宛

各国の天津增兵に対し交渉員より抗議提出に  
ついて

別紙 六月十日付右抗議書訳文

機密第三六六号

（6月23日接受）

昭和二年六月十四日

在天津

總領事 加藤 外松（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

天津增兵ニ対シ交渉員ヨリ抗議提出ノ件

当地方ニ對スル各國ノ增兵又ハ増兵ノ計画ニ閔シ今般莊交  
涉員ヨリ別紙写ノ通申越ノ次第アリタルモ我方ノ閔スル限  
リ特ニ弁明シ置クヘキ具体的事実無キニ鑑ミ交渉員ニ対シ  
テハ何等回答ヲナサス其儘打棄テ置クコトト致シタルモ御  
参考ノ為メ右書簡写及訛文茲ニ貴覽ニ供ス

本信写送付先 在支公使

（別紙）

莊交渉員來信訛文 六月十日付

押啓陳者直隸保安總司令兼省長ヨリ左ノ通訓令ヲ奉シ候

在中国堀臨時代理公使より

田中外務大臣宛（電報）

昭和2年7月2日

## 危急の場合の在留邦人保護計画について

北京 7月2日前発  
本省 7月2日後着

### 第七四八号

芳沢公使出発前危急ノ場合ニ於ケル居留民保護方ニ付坂西中将其他居留民会ノ主ナル役員本庄武官小林隊長等ヲ集メ協議会開カレタル處當時ノ意見中ニハ我居留民多數ニ上り且糧食ノ補給其他風紀衛生等ノ関係ヨリ我居留民全部ヲ公使館区域ニ収容スルコトハ困難ニ付外国軍隊ニ依ル守備区

域ヲ内域全体トスルカ或ハ全日本人及外国人ノ多數居住シ居レル東城内ニ迄拡張スルコト必要ナリト云フモノアリ小

林隊長ニ於テ試ニ右「ライン」ニテ具体案ヲ作成スルコトトナリタリ然ルニ其後右計画ニ伴フヘキ幾多ノ困難ヲ本庄中

將其他ヨリ指摘シ結局幾多ノ困難アルモ兵力ヲ以テスル防

備区域ハ交民巷ニ限り只極テ已ムヲ得サル短期間丈最交民

巷ニ密接セル一二道路迄防備ヲ拡張スルコトアルヘク右ノ

趣意ヲ以テ關係各國トノ間ニ協議ヲ進ムルコト然ルヘント

ノ意見ニ一同傾キツツアル處尚同時ニ若干ノ装甲自動車ヲ

備へ居留民ノ防備区域ヘノ避難輸送ニ便シ尚之ヲ以テ交民

巷以外ノ幾分居留民ノ殘留スヘキ東城一帯ノ巡邏ニ当ラシムルニ於テハ敗兵ノ不秩序ナル掠奪及組織的ナラサル程度ノ暴徒ノ來襲ヲ防クコトヲ得ヘク尚又京津間ノ交通杜絶ノ場合右連絡保持ノ任務ニモ服セシムルヲ得ヘシト云フ見地ヨリ小林衛隊長ヨリ天津守備軍司令官ヲ通シ北京ニ自動車三台廻送方電稟シタルニ付テハ芳沢公使ヘモ御相談ノ上右実現ニ至ル様陸軍側ニ御交渉アリタシ尚英國側ニ於テモ自動車派遣方電稟シタル模様ナリ

天津ニ暗送セリ

399 昭和2年9月23日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛

### 北京政府の撤兵要求に関するマイヤー米国代

#### 理公使談話について

機密第九四八号

昭和二年九月二十三日

(9月29日接受)

在支那

特命全権公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

支那政府ノ米国ニ対スル撤兵要求ニ關スル件

往電第九九三号支那政府ノ米国撤兵要求ニ關シ九月二十一日米国代理公使「マイヤー」ノ本使ニ語ル所ニ拠レハ該撤兵要求ニ関スル支那側「ノート」ハ約一ヶ月以前ニ送付越セルモノニシテ米国政府ニ移牒シ置キタル處十日程ヲ經テ本国政府ヨリ單ニ右要求ヲ本国政府ニ移牒シ置キタル旨支那側ニ通知シ置クヘントノ回訓ニ接シタルニ付右様取計ヒ置キタルカ其後何等訓令ニ接セサル趣ナリ

尚同日「マイヤー」ハ重光書記官ニ対シ支那側「ノート」

ハ北支地方平静ノ状態ヲ持続シ居リ且ツ治安維持ハ支那政

府之カ責ニ任シ得ルニ付駐屯軍ニ対スル増援派遣ノ必要ナ

キニ依リ其ノ撤兵ヲ要求スト云フニアリテ其ノ「トーン」

ハ極メテ鄭重ニシテ別ニ悪意ナキコトヲ感知セリト述ヘタ

ルニ付重光書記官ハ最近支那側ヨリ出テタル風説ニ依レハ

「米国政府ハ從来特ニ支那ニ対シ友情ヲ持シ友情ニ拘ハ

ラス米国ノミニ対シ撤兵要求ヲ為スハ如何ナル理由ニ依ルヤ」ト米国側ヨリ逆振ヲ喰ハシタル由ナルカ右ハ事実ナリ

ヤト尋ネタル處「マイヤー」ハ外交部員カ「ノート」ヲ持

参セル際自分ヨリ右ノ如キ質問ヲ為セルハ事実ニシテ之ニ

対シ右外交部員ハ「米国カ最モ多數ノ軍隊ヲ有スルニ依ル

### 国代理公使談話について

400 昭和2年9月27日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

米国は日本増派軍の撤退を希望せざる旨の米

第一〇〇九号

北京 9月27日後発  
本省 9月27日後着

貴電第四一八号ニ關シ

同電報接到前二十六日米国代理公使ハ堀ニ対シ最近北支增派日本軍ノ撤退云々ノ噂アル処事実ナリヤト質セルニ付公

## 六 南 京 事 件

付 漢 口 事 件

401

昭和2年3月25日

在上海矢田總領事より  
整原外務大臣宛(電報)

南京領事館、在留邦人が掠奪を受けたとの情

報について

上海 本省 3月25日後着 発

第三二〇号

在京第二十四駆逐隊司令ヨリ(二十五日午前十一時四十分発)当地海軍司令官宛(十二時二十五分着)左ノ通  
城内領事館在留民一物ヲモ残サス掠奪サレ生命ニハ異状無シ輕傷者二名御真影電報暗号等大丈夫

402 昭和2年3月25日 在上海矢田總領事より  
整原外務大臣宛(電報)

南京事件の波及なきよう上海の秩序を維持す  
べき旨白崇禧へ申し入れについて

上海 発

式ニハ何等承知セスト答ヘタル處同代理公使ハ米国ハ現ニ  
支那ヨリ増派軍撤退ノ要求ヲ受ケ居ルモ撤兵ノ意向ナシ然  
ルニ日本カ先ツ其増派軍ヲ撤退スルニ於テハ米国ノ立場甚

タ困難トナル殊ニ現在ノ増派軍ハ米本国ヨリ来レルモノニ  
シテ之カ撤退ニハ多大ノ費用ト時日トヲ要スヘク旁々米国  
トシテハ日本軍撤退ヲ希望セサル旨ヲ語レル由

第三二三号

往電第三〇三号ニ関シ

本省 3月25日後着

二十四日午前白崇禧本官ヲ來訪シタルニ付南京事変ヲ略述  
シ日本領事館及之ニ収容シタル在留民ノ運命不明ノ此際事  
態ノ如何ニ依リテハ重大ナル國際問題ヲ惹起スル虞アリ本  
官ハ深甚ナル憂慮ヲ抱キツツ南京ヨリノ消息ヲ俟チツツア  
ル次第ナリト述ヘ本官ノ切望スル点ハ右事件ノ当地ニ波及  
セサルコト是ナリ貴下力全労ヲ挙ケテ當面ノ秩序維持ニ当  
ルコト国民政府将来ノ為ニモ必要ナルヘシト警告シタルニ  
白ハ心配ラシキ顏色ヲ示シテ多クヲ語ラス上海ノ治安維持  
ハ必ス為スヘキ旨ヲ約シテ引取リタリ  
猶当日ハ解除兵問題ニ關スル要求アルヲ予期シ荒城司令官  
モ同時ニ会見スル筈ナリシモ急ニ之ヲ見合ハセタリ本官ノ  
態度右ノ如クナリシ為カ今朝迄使者ヲ立テ五月蠅ク本官ニ